

令和7年度 第3回中津川市総合計画審議会 議事要旨

I 開催日時

令和7年(2025年)7月7日(月) 14:00~15:40

II 開催場所

中津川市役所 会議棟 2階 大会議室

III 次第

1 開 会

2 報告

第2回中津川市総合計画審議会における意見への対応方針について 【資料1】

3 議事

(1) 中津川市総合計画基本構想素案について 【資料2】～【資料4】

(2) 中津川市総合計画基本計画素案について 【資料5】～【資料7】

4 閉会

IV 議事要旨

<議事>

協議事項 (1) 中津川市総合計画基本構想素案について
(事務局から説明)
(質疑)
委員
・将来都市像についてはB案で進めるということだが、市長の発信だと「ワクワク」というキーワードが多いため、そのあたりの整合をどう捉えているのか、どう発信をしていくのか。メッセージは非常に大事だと思っていて、このキャッチフレーズが空気感をつくっていくと思うので、その点を確認したい。
・29歳以下の方の意見は非常に大事で、中津川市は他の自治体と同様に若者が都市部へ流出をしている。流出した方の意見は反映されていないと思うが、人口減少をとめるのを考えるならば、「なぜ外に出たのか」意見を聞いた上で、課題化をして施策・政策に入れ込んでいくことが大事だと思う。中津川にとどまってもいいと思っている人たちだけでなく、できればとどまらなかった人たちへの調査もしてほしい。
事務局
・市長が言っている「ワクワク」との整合については、特に後半での「より良くなるまち」「住めば住むほどよい」「ほど、よい」というフレーズで「ワクワク」について発信していきたい。「住めば住みほどよい」「訪れるほどよい」というようにワクワクするまちだと、「ワクワク」を使いながらも「より良くなる」という意味で同時に発信できると思う。それにプラスして、中津川市の既存の魅力であるちょうどよい、ここに住みたいという「ほどよい」の両方の意見を取り入れたいという思いで、「ワクワクする」「楽しくなる」という意味合いを落とすわけではなく、「ほどよい」という言葉を使って、「ワクワク」を前に出していければと思っている。
・外に出た人たちの意見についてはその通りだが、現状では中津川市から出た人たちから意見を収集する手法がなかなか取りづらい。ただ、今回は特に小中学校全体にアンケートを送付し、まだ外に出ていく選択肢のない子どもたちから意見収集や投票をしてもらっているので、人口比に比べると子供たちの割合がかなり高くなっていると考えている。
・補足すると、市外へ流出していく若い人たちの意見について、今回の市民投票という中ではなかなか拾うことは難しいところはあるが、今後、市外へ行く方の意見を聞けるような仕組みや手法等を考えて、事業や施策に基づいた手立てを行っていく中でやっていけたらいいと考えている。
委員

・一点目については、結構難しい発信の仕方になると思うので、相当工夫が必要だろうと思う。「ほどよい」というのと「ほど、よい」というのは全然違う言葉で、このダブルミーニングを発信するのは難しいと思うので、頑張ってほしい。
・二点目は、いつのタイミングでどういう理由で流出しているのか、いつかのタイミングはおそらく学校（高校、専門学校、大学、短大）なので、そういった方々の意見がどうか。例えば、大勢が一堂に会する成人式とかでアンケートを行えばいいと思うが、出るか出ないか狭間の方々に意見をとるのは、非常にいいのではないかと。ご検討いただければと思う。
・「ほどよいまち」は区切るか区切らないかですごく意味が変わってくると思う。説明を聞くとすごくいいと思ったが、そのまま「ほどよいまち」と言ってしまうと、目標としては中途半端というか、ネガティブな意味になってしまうので、やはり使い方は大事だと思っている。
事務局
・発信については、何かダブルミーニングがわかるような手法を検討させてもらう。
委員
・最初にこのアンケートを見た時に私が一番良くないと思った案が1位になっていた。「ほどよい」という中途半端な、大変良くもなく大変悪くもなくちょうどよい、その中津川なのかと思っていたら、事務局からそういう意味ではなくて「住めば住むほど、良い」とかいろんな意味が含まれていると説明を受けたからやっとわかっただけで、このキャッチフレーズを見ただけではわからない。委員のみなさんも「ほどよいまち なかつがわ」に違和感を抱かれたのではないと思う。事務局からの説明で、なるほどこういう捉え方の「ほどよい」もあるんだと、やっとそこでわかったのが正直な話である。
・発信の仕方は、「ほどよいまち」を前面に押し出していくのであれば、かなり細かな説明をするのかはわからないが、慎重にやられた方がいいのではないかと考えた。
事務局
・逆に「ほどよい」というのがフックになって、なんだ？と引っかかって、そこから見てもらえるような仕組みをぜひつくっていきたいと考えている。
委員
・みなさんと同じ意見で、「ほどよいまち」というキーワードに発展への諦めを感じるので、その辺を教えていただきたい。
・有効回答数の多くの割合が小中学生との回答とあったが、実際はどのくらいの数字か。
事務局
・実際の票数だと、B案は18歳未満が34票、18～19歳が0票、20～29歳が16票、29歳以下の合計が50票となっていて、資料4の左下にも記載がある。
委員
・言葉なのでどれでも言い回しはきくが、おそらく書面で出されるわけで、誰が説明についてまわるのかわからないけど、絶対にできない。確認だが、市民7万人いる中で、475票で決定なのか。
事務局
・決定ではなく、案として持ってきていて、あくまで最終的には議決をする話になるが、こちらの案を主で持っていきたいと考えている。
委員
・現状では説明が必要、つまり行政の仕事が増えるということになるし、誤解を招く可能性もある。なので、避ければいいのかと思う。475票の中で順位はあるが、市民全体で考えれば大差ではないと考えても問題はないと思う中で、なぜB案の「ほどよい」をゴリ押しするのかわからない。理由を教えていただきたい。
事務局
・B案をゴリ押ししているわけではなく、むしろ、この審議会の中でB案ではなくこちらの案の方がいいのではないかという意見をいただければと思う。それらの意見を総合的に考えて、最終的な案とする流れになるので、ぜひ審議会としての意見をいただければと思う。
委員
・説明がいろいろあると仕事が増えるので、わかりやすい内容の方がいいだろうと思う。

・P14 将来都市像の下イメージ図で、「時をつなぐ 地域の資源とリニアのアドバンテージを最大限に活用したまちづくりによって、子どもたちの笑顔を未来へつなげていく」とあるが、リニアは今から 10 年以上先だが、残りの 7、8 年は捨てるという理解でよろしいか。
事務局 ・こちらは文章的に色々つないだところもあって、まちづくりは「リニアにより」だけではないところになるので、「子どもたちの笑顔」について、決してここ何年かを捨てるという話ではない。
委員 ・リニアの部分は誤解を招く可能性がある。この 10 年間の計画の中でリニアがスタートするのは 2、3 年分くらいの可能性が大きい。まちをつくる部分の方が大きくて、完成がいつなのかはまだ見えてない中で、リニアの影響を受けるのは今回の計画では比率的に少ない。そこまでリニアを押す理由がよくわからない。もちろん、リニアをやるのは片側で進めてもらって構わないが、イメージ図の輪の中にリニアをどうしても入れたいという意図を感じてしまう。だから、完成するまでの 8 年間は捨てるという意図になってしまうので、リニアが来る来ないに関わらず、中津川はやっていかないといけない。アドバンテージでプラスになるわけだから、リニアが来なくても中津川はやっていけるという内容にしないといけない。 ・中間の 2031 年時点ではリニアは全く関係しないので、目標のなかでリニアの拡充が大きい気がするので、そこら辺はバランスよくしてほしい。
事務局 ・リニアについては、開業自体は先になるが、それに向けてのまちづくりという部分は、やはり進めていく部分もあるので、書きぶりとかも含めてもう少し検討させていただく。
委員 ・リニアの話題が出たが、実際に 10 年後にしか動かないという動きがあるが、例えば坂本駅の周辺で区画整理を行っているが、実際に宅地造成して宅地供給ができるのか、あるいは駅周辺の整備をして、駐車場が無くなってしまって名古屋に行く方は結構困っている。リニアのまちづくりで 10 年待つのではなく、どこで何ができるか総合計画の範疇のなかでどういう考え方があるのか。 ・坂本地域の都市計画の考え方、宅地開発はさらに進んでいるが、整備・開発・保全という都市計画のポイントをここでもう少し表示していく必要があるだろうと思うが、その辺については、ほとんど触れられていない。 ・市では病院や医療の問題がある。市民病院は 35 年が経ち、建て替えをしようとするれば補助金が出て事業ができる年数である。今後 10 年間、医療や介護について整備の方向性をどう考えるのか、建て替えや新築など論議はあるのかもしれないが、病院をもっと充実してほしいという声があって、市外へ受診される割合も高くなってきている。救急の対応も市外ということが増えているとも聞くので、その辺りも整備するという方針を 10 年間白紙で待つのではなく、課題として入れてほしい。
事務局 ・具体的にリニアのまちづくりの坂本地区での進捗や医療、特に市民病院について意見をいただいた。具体的な方針については、この後の基本計画でもう少し踏み込んだ記載をしているので、そちらで回答させていただければと思う。 ・こちらは全体的な大きな方針としては、リニアを活用したまちづくりを進めていく、健康については安心して医療が受けられる、人材確保も含めて地域医療を安定して供給、市民の方に安定して中津川市が医療を供給するということまでが、基本構想の領域であると考えている。また、基本計画の段階で改めて説明する。
会長 ・各団体から出てきているので、政策も確認していただきながら、将来都市像の素案では 3 つの中では「ほどよいまち なかつがわ」が選ばれたことを共有されているが、この審議会の中でどうするのか。
委員 ・B 案の「ほどよい」をつなげなければ、これが一番いいと思う。「ほど」と「よい」の間

に空白にするとか何かを入れるとかして少し直せば、私はＢ案に賛成である。
副会長
・みなさんから意見をいただいて直していく段階だが、「ほどよい」というところでみなさんには疑問がかなりあるようなので、その部分では一考していくという形でよろしいか。
・進め方としては、構想があって後で細かい話があると意見が出しにくいので、素案まで説明してからの方がいいと思う。
会長
・では、議事２の素案の説明をいただいて、各委員から追加で質問をいただく形でよろしいか。
・それでは議事２に入らせていただく。

協議事項 （２）中津川市総合計画基本計画素案について
（事務局から説明）
（質疑）
委員
・重点施策の部分、Ａ３の説明で、基本計画内に基本政策が何個かあって、その中に緑色で塗られているのが集まって重点施策と書かれている。そこで、突然重点施策テーマがワンダフルウッズ、これを見ていくと、時をつなぐ、地域をつなぐ、人をつなぐと書かれているが、先ほど基本構想の中で同じような輪っかの絵があったが、その内容とはリンクはしていないという状態。挙句の果てに、今やろうとしているのは１０年間の構想、または計画等をやろうとしている。でも、突然この重点施策は１０年内でやるものが何個か集まった重点施策、そのテーマがワンダフルウッズ、なのにワンダフルウッズが何十年も先まで見込んだものというような説明になってくると、逆に今度は何十年も先のものがこの重点施策に選ばれるということであって、１０年間で結論出さないといけないものは選ばないということを説明されたという理解でよろしいか。
事務局
・コンセプトブックでは、将来の５年、１０年先ではなく、もっと先の未来の絵である。総合計画の中に入れるものではなく、あくまでも将来に向けたこんなまちになったらいいなという絵を描かせていただいた。そこに向かっていくためにこの５年、１０年はどんな計画にしていっていいのか、どうしたらこの未来のまちの姿に近づいていけるだろうかというところの位置づけになる。
委員
・あくまでも２０２７～２０３６年までの総合計画について今揉んでいる状態で、突然、何十年も未来を見据えて、当然その継続が何十年も未来を指すのだろうが、今の説明の仕方だとそこがベースでその下に基本構想がある位の内容である。
・今１０年をやろうとしていて、もちろん未来をつながる１０年だけれど、それでもリニアを押される。リニアのない７年間でどう考えるかということもあるが、どちらがやりたいのか、重点施策をベースにその上で他のものは後回しということなら、順位付けをやればいいのか、重点施策ではないものに対しては、この中に入らなかったものに関しては適当にやるのか、重点施策のベースになるこれだけの資料を揃えられるわけだから、別の力でやられるのか、それがよくわからない。事のスタートはＡ３の紙で、重点施策という説明が既にしてある。重点施策の説明があった上で、コンセプトブックが出てきて、延々と説明までされた。挙句の果てに、これは何十年も先を考える。これは必要なのか。
事務局
・重点施策は、施策の中で重点的に行っていく施策で、テーマとして今計画ではワンダフルウッズを掲げている。重点施策をワンダフルウッズに基づいて抽出して進めていくというだけでは伝わりにくい部分もあると思っており、そもそもワンダフルウッズのテーマとはなんだという説明として、コンセプトブックにもつながってくる。
・今回の審議会で揉んでいるのは総合計画の１０年で、基本計画で５年ずつの計画になるが、将来の姿という夢を描くという部分も踏まえた上で、重点施策を考えるべきという思いがあって、そのためのコンセプトブックを総合計画の別冊として位置づけ、最初の５年の計画の中でやっていきたい、重点施策として基本計画の中で決めていく５年の事業、施

策というところを計画の中に入れていきたいと考えている。説明の流れや仕方が悪く、わかりにくい部分も多々あったと思うが、思いとしてはそういったところで、まずはテーマの部分将来の姿も含めて説明した上で、重点的なテーマとして示したものである。
委員
・思いはわかるが、重点施策がある以上はこの 10 年の計画の中で重点施策である。 ・何十年も先の未来を描かれるのは、片側で作っておくべき内容で、今現状もあるという内容である。そうであれば、5 年の間にこれを別で、重点施策がひも付けされるからおかしくなるわけで、ひも付けせずにこれはこれでやっていくべきという案で、別でつくられた上でやった方がいい。重点施策はあくまで 10 年ではなくもっと先の未来という説明になってしまうので、そうであればこの重点施策はこの 10 年でゴールを目指すわけで、必ず 10 年で答えを出さないといけない。重点施策という枠にもう書かれているので、これは関係ないという説明であれば、実は別冊であって、これもやっていくという説明の方がわかりやすいと思う。一度考えていただき、その上でどういう風に運用されるかはお任せする。
事務局
・基本計画の中で定めさせていただく重点施策については、基本計画の中で施策として入れさせていただくものになるので、こちらも含めて説明の仕方等も含めて、もう少し練らせていただきたいと思います。
委員
・委員の話もよくわかって、これは重点施策と定めてしまうからダメな話だが、ある意味、市としては画期的なことだと思う。今までただ何々計画というのだけですっと来た中で、こういったものをつくるというのは、良い悪いは別として、非常にいい案が出てきているなというように思う。アンケートを取った後なので申し訳ないが、本来ならアンケートのところにワンダフルウッズという大きな見出しが来てもよかったのかなという印象をまず受けるのと、これは非常に行政としては、くだけていい発想が出てきているなと思う。 ・これを思いついたので、これが重点施策だという認識に結びつてくなくなるのだろうけど、これはあくまでも基本構想の素案の解説パンフレットのなものであって、重点施策というのはここに入っているの、重点施策として定めるというよりは、未来の中津川のまちづくりとして、子供にもよくわかるもので非常にいいと思うので、その辺のニュアンスの違いだけで、私は非常に良いと思う。
事務局
・位置づけ等も含めて、この重点施策を考える中では、コンセプトブックは並行した部分もあるので、その辺でなかなか位置づけ的なところも分かりづらく、本来はこうではないかという話もおっしゃる通りである。その中で今回あくまでもコンセプトブックについては、総合計画の別冊という形で位置づけたいという思いで作ってきたものである。
委員
・私もこれが出てきて、非常にいいと思った。ワクワクして、結構震えている。説明も少し整理をしないといけない点があるかもしれないが、これそのものが出てきたことはすごくポジティブだし、中津川市がこれを出すだけで変わったなと思われるという、一市民の感想だが、いいと思う。N なら Next とかもあるし、このトーンも好きである。
事務局
・ぜひ他にも N のなにかあれば、いろんなアイディアをもらえればと思う。
委員
・今までみなさんの話を伺ったり説明を聞いていて、そもそも論になるが、この会議で基本構想と基本計画を伺って、基本計画の中から重点施策をピックアップする作業が必要で、それを私たちが審議したり話し合ったりするのか、事務局がピックアップしたものに対して意見や感想を言ったりするのかと思うが、この施策などはすべて、土地の問題や医療とか教育とか中津川市がリードしていかないといけない問題で、例えば土地なら基本構想の第 7 章に土地利用構想というのがあって、大前提を市で作ってもらってそれを元にさらに具体的な、現場が判断基準としていくものだと思うので、今後 10 年とか 100 年先、リニアが来る来ないとかを見越して、何を重点的にリードしていったらいいのかを教えてください、私たちは意見が言えると思う。

事務局
・重点施策に関しては、そこでまたコンセプトブックにつながってしまうが、先ほどからの基本計画、基本構想とともに、全体的な全てのあらゆる分野についてそれぞれの項目が書かれているが、この中で中津川市が何をしたら、中津川市がどうなったら、子供たちがワクワクする、みんな楽しく、ほどよく心地よく、自然体で暮らせて、かつ子供たちがワクワク楽しく暮らせるにはどうすればいいのかを考えた上で、出てきたのがこのコンセプトブックである。将来的に遠い未来、中津川市がこんな姿になっていたら、中津川市がこうなっていたら楽しいのではないかと、こうなっているのが素晴らしいのではないかとということコンセプトブックで挙げて、重点施策はそれに資する内容を現在の基本計画、基本構想の中からピックアップして持ってきていたいと考えている。なので、コンセプトブック、つまり中津川市の何十年後かのある未来の姿、楽しくなる、ワクワクする姿についてぜひ意見をいただいて、その方向に向かうことができる施策を事務局の方で抽出したいと考えている。なので、要素的にワンダフルウッズ、このコンセプトブックの構成、こういったものがないとか、例えばワンダフルウッズをやるなら、教育が必要だろうとか、やはり公共交通が必要だよとか、そういった将来のまちをどうしたら、どうなったら楽しくなるのか、どうしたらワクワクするのか、そういったものについてぜひ意見をいただいて、コンセプトブックを定めさせていただいて、それに資する内容、そこに向かえる内容を重点施策として掲げさせてもらえればと考えている。
委員
・話を聞いていて、モニターに書いてあるコンセプトブックがずっとあるものというイメージと重点施策を基本施策の中から抽出した感じのものと図表が2つあって、そこが混同しているような感じがしているので、10年ではなくてずっと続いていくものであるとすれば、全部の施策はすべてを網羅しているので、その中でこの5年間では中津川市ではこれをやっていると、一般市民に伝えるという意味では伝わりやすいと思う。そういう意味では、上手にやるならば使っていていただいて、5個なり10個なり視覚的にぱっと今これをやっているんだとわかるように、そして詳しく見ると冊子で細かいことまでわかりつつも、市民にとっては、総合計画を見たところでどこに力を入れているかはわからないので、それがわかるかなと思う。これが5年ごとや10年ごとで変わるものなのか、コンセプトブックとしてはずっとあって、内容がどんどん変わっていく感じかなと思った。
事務局
・コンセプトブックはコンセプトブックとして長期にわたってあって、それを実現するために重点的に取り組む施策は基本計画の中に5年ごとに掲載する。5年ごとに目標をつくって、未来のまちの姿をゴール地点として、それに向かっていく重点施策として、この基本計画の中に位置づけさせてもらう。
委員
・重点施策をこれから選んで、こういうのを入れたらどうかという話があると思うが、目標が先ほど言っていた「ほどよいまち なかつがわ」を実現するためにどれがいいのかと考える頭と、未来のまちの姿を実現するためにはどれを選んだらいいのかという2つの目標ができてしまって、どっちかなと思っている。どっちにパワーバランスを置いて選ぶのかは、今後考えていく必要があると思う。
事務局
・今の話は大事なところで、将来都市像がこの10年で目指すべきところで、それに向けて計画の中の重点施策はあくまでそちらに向けて力を入れて進めていくということになるので、流れとしては大きく違う方向を向いているものではないと思っているので、そこもきちんとそれがわかるような形に、つながっていることがわかるように示していきたいと思う。今はそのつながり部分がわかりにくい、わからないという声もあるので、それも含めてわかりやすく説明できればと思う。
委員
・今話を聞いていると、整理があまりされていない気がする。重点施策のテーマの案を見ると、基本構想P14のイメージ図とほぼ一緒だが作りが違う。同じものであれば、同じように作っておかないと意味が分からなくなって混同してしまう。こことここをどういうふうに考えるのかといった時に見えない。このものとコンセプトブックがどうつながるのと

いう所も捉えている人で感覚が違ような感じがする。今日テーマにしたいもの、どう組み立てて、どういう結論にしたいのかというところがはっきりしていないので、どこからどう攻めていったらいいのかわからないのが、この会議の状態ではないかと思う。
・基本構想と基本計画で同じ言葉が2種類の言葉で書かれている。例えば、安全安心と安心安全があり、安心の方が多いので安心をテーマにしたいとか強くしたいという意味合いがあればいいが、一般的には安全安心が通常の言葉の使い方なので、そこに意味合いを持たせるのであれば、その点の説明もいると思う。少し統一されていないように感じる。
事務局
・文言の統一されていない項目に関しては、再度チェックをして統一する。 ・計画の全体の整合や整理がされていないという印象を受けたというのが、強く感じているところなので、きちんと整理をして説明ができるように整えたいと思う。
会長
・やはり資料のところや計画全体を一つ一つ丁寧にやっていくところは大変重要なと思う。概要の重点施策を見ると、将来都市像に向かって力強く牽引する施策を抽出したものと最初の資料に書かれているのが、それが変更になるのかどうかも含めて、このコンセプトブックは大変考えられて、いいものが出てきていると思うが、そこをほんとにみんなが納得してうまく使っていくという所の建付けがもう少し必要ではないかと思った。 ・ここの場の中で、さきほど小縣委員も言われてように、なにか結論を出してだとか、この方向に行こうという結論を出すのは、今の段階ではちょっと難しいかなというのが私の意見だが、みなさんいかがでしょう。もう一度、事務局の方で建付けのことも含めて、将来都市像についてもさまざまな意見があったので、決を採るというよりももう少ししっかり整理して、提示していただければと思う。一回会議が増えるのかもしれないが、ぜひ今まで出ている資料も確認しながら、今ここでこの方針で行こうというのは少し難しそうではあるが、みなさんはいかがか。
事務局
・全体的なスケジュールとしては、10月下旬に最終的に市長に答申、12月の議会に上程させていただく、つまり10月末、11月頭くらいには案として完成させていただきたい。また、パブリックコメントも実施したいと考えているので、答申までにとなると9月半ばまでにはパブリックコメント用に固めたいと思う。 ・あくまで策定するのは中津川市なので、審議会の意見として完全に固めて、ひとつの意見としてこうだという必要はない。できればそれを目指してはいるが、異なる意見があっても、最終的には付帯として意見をいただき、中津川市として答申としてはこうだということはある。8月、9月の間になんとか予定を組ませていただければと思う。
副会長
・素案とか計画案があるが、これが決定事項で議会に通るというわけではなく、ここから提案したものが、市長も含めた市の決定機関で決定した上、議会に通すということだね。だから、完全なものが出来上がるわけではない。 ・今たぶんみなさんが思っているのは、これについての意見を言うだけなのか、それともこれに対してまだ足してほしいというものを言っているのかどうかというのがまず明確ではないということだろう。 ・それから、この資料だけならいいが、アンケート結果もありワンダフルウッズもあって、どこが主となるのかといえはこの2つの計画、基本計画とコンセプトブックだと思う。
事務局
・その通りで、様々な意見をいただきたいところだが、審議会には各団体の代表としてお越しいただいているので、基本的な考え方として、各分野のそれぞれ所属している団体の目線で、こちらの各項目について、これが本当に中津川市として向かうべき方向性かを確認いただき、意見をいただきたい。足りない言葉やもう削ってもよいという内容があれば教えていただければと思う。 ・コンセプトブックについては、まだ変えることは可能である。意見をいただき、変えさせてもらう。
副会長
・基本計画が決まってからのコンセプトブックであり、ものすごく良いものを作っている

と思うが、コンセプトブックを押し通す前に、まず基本計画をしっかりと決めて、それに合わせたコンセプトブックをつくるべきというのが、私個人の意見である。
・ もう一つ付け加えてほしいのが、先ほどもハコモノの話が市民病院も含めて出たが、会議棟は物凄くいいものをつくっていただいたが、本庁舎、消防署、各支所も含めて、市町村合併後の建物を一度見直す時期に来ていて、それから新しいものは建っていないと思うので、それを見直すことと坂下病院を含めた医療関係を見直すのも、これだけ地震等の自然災害が大きい中で、一級河川のところに会議棟も含めて、この場所が行政としていいのか悪いのかでいえば、私は現状ではそぐわないだろうと思う。だから、それも踏まえて計画もできるできないかは別として、これを今入れておかないと次の5年先になってしまうので、駅前のにぎわいとかも含めて、ハコモノ行政に対してもやはりある程度計画を盛り込んでおかないと、災害や地震が起きて壊れてしまっ行政が止まってしまったではダメだと思うので、それも含めたワンダフルウッズだと思うので、その辺は盛り込むのか、大きなニュアンスで捉えてもらえれば良いと思うが、一度整理してやっていただきたい。
事務局
・ 今いただいた意見も含めて、まずはこの作りとか検討いただく内容、こういったゴールに向けてか、そういった整理も含めて、また次回、この会議を増やすのか、次の会議の中でそういった説明をするのか、まずは整理をしてから説明をさせていただければと思うのでよろしくお願ひしたい。
会長
・ いただいた意見等については、事務局で検討していただくものとし、スケジュールもあるので、また次の委員会までに進めていくところは進めながら、もう一度みなさんから意見をいただく機会を持ちたいと思っている。

<その他>

- ・ 次回以降の日程は、改めて検討させていただき、改めて連絡する。
- ・ 意見の用紙については、7月22日までにお願ひしたい。

<閉会>

- ・ 令和7年度第3回中津川市総合計画審議会を閉会

以上